



あけぼのつうしん

令和5年（2023年）11月30日発行

No.85

〔目次〕

■ 注目！notable case ～道内図書館（室）トピックス～	…… 1
○ 雄武町図書館 企画展示「アウトドア特集」	
○ 北見市立中央図書館 夏休みこどもしゅくだい相談	
○ 日高町立門別図書館郷土資料館 こわくないよ！「むかしの家でおはなし会」	
○ 苫小牧市立中央図書館 郷土に関する情報発信「とまチョップの苫小牧さんぽ」	
○ 興部町立図書館 「図書館にカブトムシがやってくる」	
○ 中札内村図書館 地域の文化活動を支える図書館として	
○ 標茶町図書館 「地域おこし協力隊コラボ企画！ ぜんぶ馬の本展」	
■ 令和5年度図書館活動支援事業レポート	…… 8
【講師派遣】 壮瞥町地域交流センター図書室	
【学校ブックフェスティバル】 利尻富士町立鴛泊小学校	
【学校ブックフェスティバル】 えりも町立えりも岬小学校	
【講師派遣】 釧路市図書館職員研修	
【講師派遣】 十勝管内公共図書館協議会前期職員研修会	
■ 道内図書館キャラクター紹介！ Vol.7	…… 13
・ 由仁町ゆめっく館 「ガチャっとくん」	
■ 北函振の研修会から	
・ 全道図書館中堅職員研修会	
・ 全道図書館専門研修〈企画広報〉	
■ 統計「北海道の図書館」を編集して	…… 17
■ お知らせ	…… 18
* 北海道図書館大会《基調講演・トピック》配信しています！	
* 電子図書館オープン！（芽室町図書館、音更町図書館）	
* 国際子ども図書館・展示会「おいしい児童書」開催中	
* 「書店・図書館等関係者における対話の場」開催	
* 情報満載！「北海道の出版社」（『Do-Links 北海道立図書館情報検索リンク集』から）	
■ 編集後記	…… 20



北海道立図書館

■注目！ notable case ～道内図書館(室)トピックス～

Case 1 企画展示「アウトドア特集」

雄武町図書館



近年コロナ禍もあり、若者を中心にキャンプなどアウトドアを楽しむ方が増えています。雄武町図書館でもアウトドア関連の資料は徐々に揃えてはいますが、複数の分類に跨り関連する資料が散らばって配架されている状況でした。キャンプ場や登山ガイドは【291】、ロープの結び方は【383】、星空観察は【442】、野鳥観察は【488】、キャンプ飯【596】、焚き火【658】、キャンプ・登山【786】といった具合です。

(※【 】内はN.D.C.の分類記号)

そこでまとまった資料を町民の目に留まるよう、次のようにコーナーを設け、企画展示を行うこととしました。

・展示コーナー

- (1) アウトドア関連図書（キャンプ、焚火、野外料理等）
- (2) 礼文島の植物ミニ写真展 ※ 副町長画像提供
- (3) アウトドア用品展示（テント等）※ 副町長提供
- (4) フリーマガジン「北海道キャンプ&アウトドアプレス 2023 Vol.7」発行者：NPO 法人北海道オートキャンプ協会

・展示期間

令和5年6月20日（火）～7月20日（木）



図書館の所蔵資料を、キャンプ、焚火、屋外料理、動植物や星空観察、外遊びなどのキーワードで集めたほか、本だけではインパクトが足りないと思い、実際にテントや焚火台などを展示しました。

このようなアウトドア用品は、登山愛好家の佐々木幸博副町長から私物を提供していただいたほか、副町長が撮りためた礼文島の植物の写真展示も行い、ランタンや雄武町海岸で採取した流木なども並べて自然味を生かした展示を心掛けました。



また、来館者に対するアピールという点で、フリーマガジン「北海道キャンプ&アウトドアプレス 2023 Vol.7」の配布を決めました。フリーマガジンを持ち帰ることは、本を借りることよりもハードルが低く、都会の専門店などに置いてある、普段地元の方が手に取ることがないものであるという「ちょっとした特別感・お得感」を感じて欲しいためです。

その他、産業振興課林務係が作成している雄武町の「ヒグマ出没状況」も展示し注意喚起を行いました。

期間中は、キャンプに親しんでいる利用者も多かったため、沢山の来館者が立ち止まり本や写真、道具を見て楽しむ姿がみられ、互いお気に入りのキャンプ場の情報を交換する等、交流の場を作ることに貢献できたと思います。

今回のアウトドア展示では北海道の魅力、自然の美しさを伝えることができたと思います。これからも利用者の暮らしを豊かにするお手伝いができるよう、様々な企画を準備しているところです。

■ 参考：北海道オートキャンプ協会 (<https://www.auto-net.or.jp/>)

(寄稿：雄武町図書館 櫻井 輝久 氏)

今回は、当館で平成30年から毎年夏休みに小中学生を対象にしている「夏休みこどもしゅくだい相談」について報告します。この事業は、実は通常のレファレンスと変わりませんが、ターゲット層別に分かりやすくタイトルを付けて発信することで子どもたちに図書館が調べものの場所だということを広く知ってもらうための広報イベントです。

【相談方法】

夏休み期間中メール・電話・館内配布の申込書のいずれかで、調べたい事や宿題で困っているところを書いて相談する。

【回答】

基本的に質問のあったツールで回答します。

その際はレファレンスの鉄則「答えは教えない」を厳守しています。レファレンスインタビューは雑談をまじえて丁寧に対応し、紙での回答の場合はお手紙を書くような文体で、図書館をより身近に感じてもらえるよう心掛けています。

【相談内容】

今年度紙での申し込みは5件、その他口頭での質問は30件ほどで一般レファレンス数にカウントしています。

- ・あさがおの色で染め出しをしたい。色水実験をしたい。
- ・ひろった石で工作をしたい
- ・読書感想文で読む本に迷っている
- ・スズメガについて調べたい
- ・万華鏡の作り方 など。

図書館員にとっては定番の内容かつ相談件数も10件未満とそう多くありません。また近隣の自治体で同様の企画を行ったところ、相談がなかったとの話も耳にしました。しかしよく分析してみると、夏休み期間の児童室の口頭でのレファレンスが年々増加していることが分かりました。「しゅくだい相談」と銘打つことで、子どもたちは「図書館に相談していいんだ」と認識してくれつつあるのではと思います。

今後も「図書館＝調べものの場所」を住民にPRしていくことで、図書館の生涯学習機能の基盤づくりを行っていきます。



(寄稿：北見市立中央図書館 川畑 恵美 氏)

Case3 こわくないよ！「むかしの家でおはなし会」

日高町立門別図書館郷土資料館



○ 概要

郷土資料館内の移築古民家にて絵本読み聞かせを実施しました。題して『むかしの家でおはなし会』。

わが郷土資料館は薄暗い照明も相まって少し怖い！隣接する小学校の子どもたちにもなかなか利用してもらえていないのが実情です。

この状況を何とかすべく、職員総出でアイデアを出し合ったところ、「古民家の中でおはなし会をやってみたら面白いので

はないか」という意見が挙がりました。それをそのまま採用したものが本企画です。

コロナ禍で途絶えた読み聞かせ会復活の第一歩として、また図書館と郷土資料館が併設している魅力を活かすイベントとして開催しました。

○ くふう (写真参照)

・展示している郷土資料と関連性のある昔話を読み聞かせしました。町内で営まれてきた稲作の歴史紹介コーナーから『わらしべちょうじゃ』、『おむすびころりん』、古民家の囲炉裏から『ぶんぶくちやがま』など。お話に登場するものが目の前にある！という、絵本だけでは伝えきれない臨場感を生み出せました。

・古民家のレトロな雰囲気を保ちつつ、子どもたちが安心できる環境づくりに取り組みました。LED行灯(自作)やLEDろうそく(100円ショップで購入)を設置して照明不足を解消し、固い板敷には『い草』の座布団を置きました。

・怖くなったらいつでも抱っこできるように、カエルのぬいぐるみを3匹用意しました。コロナ禍前は来館者用のベビーベッドに並べていたものです。古民家には合わないかな？と心配でしたが、これが大人気！子どもたちにもみくちやにされながら活躍してくれました。



○ まとめ

2023年4月～7月にかけて計3回実施した結果、保護者を含む計21名の方にご参加いただけました。子どもたちからも『またやってほしい！』と好評であったため、今後も継続して実施していきたいと考えています。

読み聞かせの様子(動画)は日高町役場 facebook に掲載していますので、ぜひご覧ください。

(https://www.facebook.com/town.hidaka/?locale=ja_JP 2023年7月19日投稿記事)

(寄稿：日高町立門別図書館郷土資料館 谷口 亮徳 氏)

Case4 郷土に関する情報発信「とまチョップの苦小牧さんぽ」

苦小牧市立中央図書館

苦小牧市立中央図書館は、2014年よりHPや電子図書館での郷土に関する情報発信として「郷土ゆかりの人物を知る 苦小牧はじめて物語」や「とまチョップの苦小牧さんぽ（以下とまチョップさんぽ）」を作成しています。

特にとまチョップさんぽは、小学校3年生以上を対象に、授業や調べ学習で役立つような郷土に関するテーマで、苦小牧で愛されるキャラクター「とまチョップ」と一緒に分かりやすく学べるような構成を心がけています。

毎年テーマの選定には悩みますが、以前小学校の先生を対象に行ったアンケートを、テーマ選びの参考にしています。



現在は、「苦小牧の姉妹都市と友好都市」「折居彪二郎（おりひょうじろう）一鳥学を支えた人」「ウトナイ湖」「身近な果実ハスカップ」「ウトナイ湖の野鳥」「B1とんちゃん」の6テーマを公開しています。いずれも、一般流通の図書のみならず、市職員や地域施設へと協力を仰ぎ、ここにしかない情報を盛り込んだ内容になっています。

また、苦小牧に関する電子書籍はログイン不要で閲覧することができるため、2022年度作成の「B1とんちゃん」からは、HP公開ではなく「苦小牧市電子図書館（DL）」で閲覧できるよう、より「図書」らしい作りになりました。

「B1とんちゃん」は苦小牧のブランド豚で、豚まんが地域のお祭りや道の駅、ふるさと納税の返礼品として広く知られていますが、開発の経緯や肉の特徴についてまとめた資料がなかったため、選びました。

目次、一般的な豚や養豚について、「B1とんちゃん」について、生産者とのインタビューでしか分からない情報、過去の苦小牧民報で取り上げられた記事、参考文献と奥付…。生産者の方と打合せを重ね、小学生にもわかりやすい内容を、と半年かけて完成させました。

作成にあたって苦労したのは、漢字のルビふりと、小学生に伝わる言い回しの変換です。学年別漢字配当表から、4年生以上で習う漢字はひらがなにす、熟語にはルビをふるなど「読む」に当たってひっかかりがないようにしました。また、「畜舎を清潔に保つ」を「掃除して、空気を入れ替えてお世話する」と言い換えるなど、何気なく読んでいる資料の情報が、実際に小学生に意味が伝わるか確認しながら文章を整えました。

今後は、学校でのタブレット学習でも使いやすいように、現在HP公開中の他のテーマも電子図書館で公開できるデータに改訂することを予定しており、地域に関心をもつきっかけのひとつになれば、と思います。

（寄稿：苦小牧市立中央図書館 広瀬 恵実 氏）



子ども読書体験事業のテーマを「カブトムシ教室～カブトムシの一生を学ぶ」として、カブトムシを幼虫から育てて最後は標本にするという体験事業を行いました。この専門的な事業は、本だけではなく体験を通してより楽しんでもらおうと、遠軽町のNPO 法人丸瀬布昆虫同好会の御協力のもとに実施しました。そもそもの経緯は、自然豊かな興部町で生活していても、意識をしていないと昆虫などの生き物に触れたり観察したりすることがありません。それはとても残念なことだと感じていました。でも、どうしたら

子どもたちがそこに生息する昆虫に興味を持ち、採り方や飼い方を知ることができるのかを考えた時に、「丸瀬布に昆虫生態館があるではないか！」と思い立ち、専門である生態館へお願いすることとしました。これが、昆虫同好会と当館との繋ぎの始まりです。

まず、令和3年度に移動昆虫教室として7種類の虫（カブトムシの幼虫、ヘラクレスオオカブト、カマキリ、ナナフシなどなど）を持ってきてもらい、子どもたちが昆虫の動きを見たり触れたりして感触を楽しむことを行いました。昆虫に触れるという体験は保護者にも楽しんでいただき好評でした。

そして、令和5年度に「カブトムシ」に焦点をあて、幼虫から標本までにする体験事業を行いました。6月4日のムシの日に幼虫編として、幼虫のからだのしくみ、オスメスの見分け方、飼育方法を学ぶ教室を行いました。同好会から参加者一人ひとりに幼虫1匹と飼育セットをもらい育てることにしました。幼虫は見るのも触るのも苦手と感じる方が多いと思います（特にお母さん）が、子どもたちは平気で触れるので感心しました。私自身も見慣れると、もしかしたら触れるかも…と思えるくらいの成長でした。図書館でも幼虫を2匹いただき育てて成虫にし、来館した子どもたちにも観察してもらいました。夜行性であるため土の下にもぐっていることが多かったのですが、土の上に出てきている時は、子どもたちとカブトムシを見ながら会話をする楽しい時間もありました。

8月1日には標本編として、カブトムシの標本の作り方を学びました。幼虫編でいただいたカブトムシはまだ生きているので、今回も同好会から死んだカブトムシをいただき、標本針をどこにどのように刺すか、どのくらい乾燥させるか、などを学びながら標本を作りました。標本は100年は保存できるということでした。そして、飼っているカブトムシが死んだらどうするか？カブトムシは外来種なので外の土に埋めてはいけない、という大事なことも教えていただきました。

昆虫の図鑑や本は、おススメしなくても貸出されることが多い本ですが、読み物などの関連本も含めてコーナーを作ると貸出しは更に多くなりました。

このように、「読書」と「体験」を結びつけ追体験することでより深い知識を得ることができます。本の世界をより深く感じ、豊かな感情が育まれるよう、次は何をしようかと思案中です。

（寄稿：興部町立図書館 大井 重美 氏）



Case 6 地域の文化活動を支える図書館として

中札内村図書館

中札内村図書館では、図書館ボランティアの皆さんが中心に活動する定期的なおはなし会の他に、年間15回程イベントを実施しています。準備は司書が行いますが、当日の講師や運営サポートなどでは地域の方に協力していただくことがあります。今年実施したものの中から3つご紹介します。

1. ボードゲーム会

当館は2020年3月にボードゲームの館外貸出を始め、長期休み期間にはボードゲーム会を開催してみんなで遊んでいます。ボードゲーム会は参加申込不要・出入り自由で、友達と一緒に来る小学生、幼児と保護者、大人の方お一人などで、毎回10~25名程の参加があります。当日は帯広市のボードゲームカフェ the Litの浦野訓人さんに運営の手伝いを依頼しています。浦野さんは図書館で所蔵していないボードゲームを持ってきてくれて、そちらのゲームの説明や参加者の年齢層や興味にあったゲームを選んでくれます。



他にも、図書館におすすめのゲームを教えてくれる九州の司書の方や、ボードゲームに詳しい参加者が、他の参加者に説明してくださったりと、多くの方々に助けをもらいながら実施しています。



2. ニワトリの骨格標本作り

毎年夏・冬休みに工作会をしています。今年の夏はスーパーで売っている手羽元・手羽中・手羽先を使って「骨格標本作り」をしました。

講師は、図書館の利用者さんを通じて帯広畜産大学の先生を紹介してもらいました。標本作りの途中で、村内で鶏を飼育・加工している企業さんから提供された丸鶏を先生に解剖してもらい、鶏の骨格や筋肉について専門的な話も聞きながらの工作会となりました。

3. おはなし音楽会

地域で音楽活動をしている演奏家を招いて、絵本の読み聞かせ等と音楽を楽しむイベントで、年に2回程開催しています。会場は図書館と同じ建物内にある500名程収容できる多目的ホールを使用しています。

木管五重奏の生演奏にあわせて映画「魔法使いの弟子」を上映した時は、曲目と編成をこちらからお願いましたが、音楽のプログラムを出演者に一任することもあります。絵本の読み聞かせは図書館ボランティアの皆さんに担当してもらっています。

このように、地域の多くの方に協力していただくことで、それぞれの分野の専門的な視点や技術が加わり、より充実した図書館事業を開催できるようになりました。これからも地域の文化活動を支える図書館として、様々なイベントを計画していく予定です。お近くにお越しの際はぜひ遊びに来てください！

(寄稿：中札内村図書館 小山 洋子 氏)

Case7 「地域おこし協力隊コラボ企画！ ぜんぶ馬の本展」

標茶町図書館

標茶町では、平成29年より「道東ホースタウンプロジェクト」事業を推進しています。これは、北海道の道東エリアにおいて、明治41年の軍馬補充部川上支部の設置から続く乗用馬生産・乗馬文化と、標茶町を「馬の聖地」とし馬を核とした地域づくり「馬と暮らせる町…標茶」を目指し、乗馬による自然観察や現役時代に活躍した馬たちの余生を標茶町で過ごしてもらおう等の事業を行っています。



令和3年度にも一度展示を行っていますが、その際は地域おこし協力隊の方と打合せし、馬に関する資料の展示（図書の借用）、プロジェクトの紹介を行いました。

今回の展示では、新たな地域おこし協力隊の方とも事前に何度も打合せを行い、一回のみの展示ではなく、複数回の展示を行うことで、皆さんの関心が高まるのではないかという効果をねらい、現在の馬の状況のほか、地域おこし協力隊の方と町内の小学生と一緒に学習した馬の情報、預託馬（よたくば）※注1の紹介（協力隊の働きかけにより、現役時代の写真を競馬本の編集部より入手）も加えてみました。

また、道立図書館からも関係する多くの図書をお借りし、ホースタウンプロジェクトの紹介とともに行いました。ちなみに、この取組はスポーツ新聞や農業新聞にも取り上げていただきました。

展示中は、多くの来館した皆さんが足を止めていただき、

「馬が（標茶に）いることは知っていたが、こんなに（頭数）いるなんて知らなかった」、「過去に重賞（じゅうしょう）レース※注2を制覇したすごい馬が今、標茶町で過ごしているんだ」等の声もいただきました。

図書館の企画展示は、来られる方が何をのぞんでいるか、何を知りたがっているかをいろいろな角度から協議し、それに近づけられるような情報を加えていくことが大切であると改めて気づかされました。

このような形で、今後も地域の皆さんとタッグを組み、町民の方の興味・関心を惹く展示に結びつけていきたいと考えています。



※注1：馬主（個人、グループ等）が所有する引退した競走馬等を、牧場や施設等に預けた馬

※注2：競馬の特別競走の中でも特に賞金が高く、重要な意義をもって設けられた競走（GⅠ・GⅡ・GⅢ）。

（寄稿：標茶町図書館 丹 和也 氏）

■ 令和5年度図書館活動支援事業レポート

【講師派遣】 壮警町地域交流センター図書室

「ボランティアさんと力を合わせて！ 展示の工夫」

6月下旬に壮警町地域交流センターを訪問し、図書室の装飾やイベント補助などを行っているボランティアの皆さんを交えて、「図書館（室）の展示の工夫」について運営相談を行いました。

ですが、壮警町のボランティアさんたちが作る装飾は手の込んだもので、過去に撮影した写真を、お手本として他の市町村に紹介しているほど。手芸・工作の技はこちらが教えていただきたい！ということで、今回はアプローチを変え、コロナ禍で利用者が減少しているというお悩みも踏まえて、「図書館（室）の展示の目的とは」という基本を再確認しながら、利用拡大につながる掲示・展示のアイデアについて考えました。

訪問してまず感じたのは「せっかくきれいに飾った図書室が、住民には知られていないのでは？」ということでした。町役場と併設された大きな複合施設内にあり、残念ながら建物入口からは図書室が見えないのです。図書室に興味を持ち、利用してもらうためには、まず「気付いて」もらうことが必要です。来館者・利用者の視線や動線を意識して、効果的に掲示物や装飾を作成、配置することについて事例を紹介しました。

ボランティアの皆さんからは、壮警町に応用したアイデアが次々と出される場面もありました。また、講義の後に実際の図書室を“点検”し、利用者目線を改めて意識しながら、掲示物や案内表示、展示の見せ方や仕置の配置などの改善案を、それぞれが考える時間も持つことができました。

図書室のことを日頃から熱心に考えている職員・ボランティアだからこそ、「図書室を知らない人」「図書室を利用していない人」の視点については意外と忘れがちなのかもしれません。コロナ禍で制限されていたボランティア活動も本格的に再開され、さらなる活動活性化、そして利用者増加につながることを期待しています。

※ ボランティアの皆さんが企画・作成した図書館キャラクター「やまうさ」について、『あけぼのつうしん』No.83で紹介しています。



廊下側ガラス窓の装飾。
数年前にボランティアが専用クレヨンで描いたもの



あじさいの花びらは、キッチンペーパーをボランティア自
らで染めたものを利用。凹凸がいい感じ！

児童数:60名

用意した児童書:600冊

しかけ絵本:80冊

おはなし迷路:2枚

会場である体育館を半面に区切り、前方をおはなし会場、後方を本を広げるスペースとし、前日夕方、当日の朝の2回に分けて準備。町教育委員会、小学校教諭、学校ボランティアの方々が一丸となって準備・運営に取り組みました。

児童書をブルーシートの上にばらばらに並べ、長机にはしかけ絵本、壁にはおはなし迷路を設置し、準備完了。

児童が体育館に入った瞬間のわくわく感がこちらまで伝わってきました。

ボランティアの方々の絵本の読み聞かせを楽しんだ後は早速本選びがスタート。終始楽しそうな子どもたちの声が会場に響き、終了後には6年生が積極的に片付けを手伝ってくれたのがとても印象的でした。



【参考：事業の流れ】

前日

- 会場準備 (16:30~17:00)

当日

- 会場準備 (9:00~9:40)
- 開会式 (10:25~10:30)
- おはなし会 (10:30~10:50)
- ※ 前半 (1~3年生)、後半 (4~6年生)
に分けて絵本の読み聞かせ
- 貸出方法の説明 (10:50~10:55)
- 本選び・貸出 (10:55~11:40)
- 閉会式 (11:40~11:55)

【学校ブックフェスティバル】 えりも町立えりも岬小学校 8月29日(火) 10:15~11:40

8月下旬でしたが、残暑でまだまだ高い気温が続く中での実施となりました。そんな厳しい暑さにも負けず、児童が元気いっぱいに参加していたえりも町立えりも岬小学校でのブックフェスティバルについてご紹介します。

会場である体育館の床に「ござ」を敷いた上に道立図書館から送付した児童書を並べ、壁側には、しかけ絵本やおはなし迷路も設置しました。

前方には、読み聞かせのスペースを作り、えりも町福祉センター図書室職員による読み聞かせのほか、地域おこし協力隊の宗田光一さんが自らの著書である絵本『数のふしぎ』（宗田光一 作・絵）の読み聞かせを行い、数学の集合の概念についてわかりやすく解説しました。特に高学年の児童は、不思議な数のお話にとても興味を持って聞いている様子が伺えました。

本選びでは、どの児童も熱心に自分の読みたい本を手に取り、借りた本をその場で座って読み始める児童も見られました。児童からは、「いろいろな本を選ぶことができ、楽しかった」との感想が寄せられました。

児童数:32名

用意した児童書:500冊

しかけ絵本:800冊

おはなし迷路:2枚

【参考：事業の流れ】

前日

- 会場準備 (15:00~16:10)

当日

- 開会式 (10:15~10:20)
- おはなし会 (10:20~10:35)
- 貸出方法の説明 (10:35~10:40)
- 本選び・貸出 (10:40~11:30)



【講師派遣】 釧路市中央図書館 「釧路市図書館職員研修」

8月25日(金)「図書館サービスと著作権」をテーマに釧路市図書館の職員研修を実施しました。

今回の研修は、概論的な講義を主とするのではなく、あらかじめ釧路市の図書館が、日頃の図書館業務で著作権にかかり、判断に迷ったり、苦慮している事からを質問事項としてまとめ、送付していただくことをお願いし、それをもとに関係法規やガイドラインなどを紹介しながら、適切な対応を提示する形をとりました。

当館からは、事前に著作権(法)の概要等を記した講義資料と関係法規やガイドライン等をまとめた資料を送付し、当日までの一読を薦めました。あわせて〇×式で答える事前課題も提供しました。



釧路市から提示された質問には、複写サービスに関わるもののほか、動画・画像資料の扱いや著作権がない資料や著作物としての判断など、多岐にわたりました。

日常の業務の中で感じた疑問や迷いについて、その裏付けとなる法規の解釈やガイドライン等を改めて提示することで、今後のスムーズな図書館サービスに向け、少しは貢献できたのではと思います。

著作権法は、他の法律に比べ改正頻度が高く条文も多いです。施行令や施行規則にも目配せしな

ければなりません。とても複雑で苦手意識を持ってしまいがちですが、図書館における「著作権の制限」や「複写サービス」については、著作権法に掲げる“定義”(第2条)や“図書館等における複製”

(第31条)、“保護期間”(第51～54条)が基本となります。運用に当たっては、全国公共図書館協議会や日本図書館協会等が示す“ガイドライン”にも留意しなければなりません。文化資源(図書館の蔵書)を扱う職員として、正しい知識や判断を身に付けたいものです。

図書館の複写サービスは、カウンターにおける利用者とのトラブルの一因として挙げられることも少なくありません。そのためにも、それぞれの図書館が著作権法の趣旨を踏まえた分かりやすいサービス指針を作成・明示し、日々発生する個別の事案については、主体的に判断することが求められます。

今後も著作権と図書館サービスに係る動きに注目しながら、皆さんとの情報の共有化に努めていきたいと思えます。



【講師派遣】 十勝管内公共図書館協議会前期職員研修会（会場:大樹町生涯学習センター）

講義・演習「実践！レファレンス・インタビュー」

管内での研修会について、コロナ禍前の令和元年度を最後に長らく実施出来ておらず、その間に職員の入替わりもあったため、「改めて現体制の職員全体で知見を広げ、管内図書館の活性化に繋がっていきたい。」とのご相談をいただきました。いくつかの講義希望テーマの中から、「基礎的なレファレンス」を取り上げたところ、利用者との接し方や言葉遣いについても内容に含めて欲しいとの要望をいただき、それならばと「実践！レファレンス・インタビュー」と題し、受講者の皆さまにはお忙しい中、レファレンスの事前課題にも取り組んでいただいていたの研修会となりました。



▲講義内・グループワークの様子
(会場は普段、視聴覚室として運用)

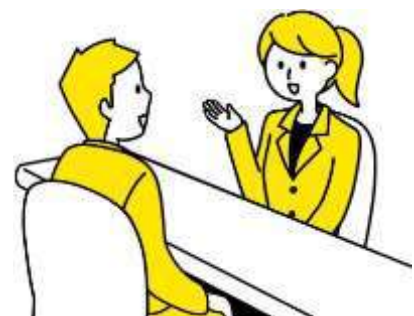
現地に赴き（なんと当日は大雨でした・・・）、配付資料やパワーポイントの画面を用いながら、前半は30分の講義を行いました。後半は5つのグループに分かれ軽い自己紹介の後、事前課題の内「調べ方について悩んだ部分等、一人では解決できなかった項目」などについて、30分間話し合いの時間としました。休憩時間の後、「ほかのグループにも共有したい調査方法や工夫点」を中心に、3つのグループから発表を行っていただき、最後は実際の回答方法（今回の事前課題は実際に道立図書館で過去に受けたレファレンスを元に作成）について補足しました。



▲A-Eのグループに分かれ、グループワークを行いました

まだレファレンス業務は経験が浅い方からベテランの方まで様々な中、はじめこそ緊張感が漂っていたものの、話し合いが始まると積極的に意見交換を行ったり、他館との交流を深めていただけている様子でした。

今回の研修会が、今後の管内図書館の更なる発展・交流に繋がる一助となれば嬉しいです！受講者の方々、事務局・運営者の皆さま、大変お疲れ様でした。



道内図書館キャラクター紹介！

Vol. 7

HP や SNS での広報活動のほか、オリジナルグッズの作成などにも力を発揮する図書館キャラクター。

道内各地域で活躍中の、個性豊かなキャラクターたちを紹介します！

説明文・キャラクター画像は各図書館（室）からご提供いただいています。
いつもありがとうございます。



★ 今回は特別編。イベントでも大人気！ 図書館で生まれたマスコットを紹介します。

ガチャっとくん 由仁町ゆめっく館

『ガチャっとくん誕生秘話』

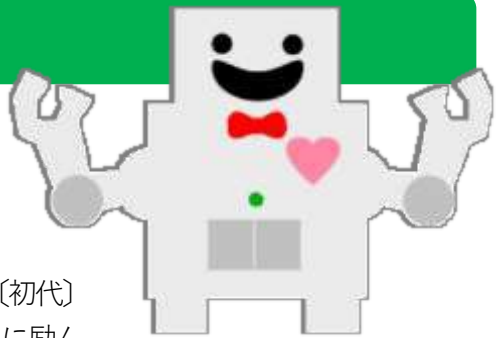
「イベントに使えるガチャガチャの機械が欲しいね」
「段ボールで手作りできるらしいよ」

今からおよそ 10 年前、気立てが良く手先の器用なスタッフ〔初代〕が作成したガチャっとくんは、今日も元気に“ボランティア活動”に励んでいます。

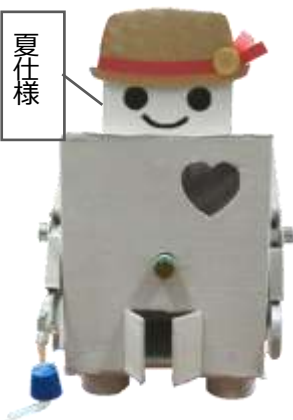
ゆめっく館で毎年行っている“ミッションをクリアしてスタンプを集める通年イベント”では、ミッションのひとつとしてガチャっとくんが登場します。※ 今年度は「おはなしトレジャーハント」

ガチャっとくンを回すと、カプセルの中には「読んだことのない本を 3 冊借りよう」「表紙が〇色の本を借りよう」といった指令の紙が入っており、それを達成するとスタンプを押すことができます。

スタンプを貯めた子どもたちにプレゼントするグッズも、ガチャっとくンをモチーフにしたオリジナルのメモ帳やトレーディングカード、トートバッグなど。これらは、気立てが良く手先が器用で絵も抜群にうまいスタッフ〔2代目〕の作で、みんなが大喜びです（販売したら一獲千金かも…）。



夏仕様



ガチャっとくんに手紙を書いて館内の特製ポストに投函すると、後日来館した時には返事が届いています。手紙の返事は、ガチャっとくん（になりきったスタッフ?!）が一枚一枚書いていて、美しい切手と消しゴムはんこの消印付き。大人でも欲しくなるくらいのお返事内容です。

子どもたちは好きな食べ物の話や学校行事の話を手紙に書いてくれます。ときにはこっそりと内緒話も。ガチャっとくんは、サンタさんより先に彼らが欲しいプレゼントを知るのです（ここは図書館。秘密は守ります!）。ガチャっとくんの似顔絵を描いてくれる子もたくさんいます。

ゆめっく館のガチャっとくんは、みんなのアイドル。
皆さん、ぜひ会いにきてくださいね。

おまけ。おとし、兄弟分の「ガチャンコくん」（段ボール製）も誕生したのですが、彼のことはまた別の機会に…。

（原作：由仁町ゆめっく館 池田 聡美 氏 / 脚色：道立図書館企画支援課）

■ 北図振の研修会から

○ 全道図書館中堅職員研修会

7月6日（木）～7日（金）道立図書館

「住民との協働で築く図書館サービス」をテーマとした令和5年度の中堅職員研修会は、32名が参加し、図書館運営に関する企画力など、中堅職員としてのスキルの向上を目指しました。

■ 内容

(1) 「ボランティアと手を携える図書館活動」

講師 根室市図書館長 松崎 誉 氏

資料の配架や補修のほか、新聞スクラップの作成といった地域資料の整備、また、講演会や図書館フェスティバル、図書館カフェや古本市などへの事業協力など、根室市図書館の活動が多くのボランティアに支えられていることを紹介した上で、ボランティア運営の方針や取り決め、募集や育成などについてもお話しいただきました。図書館とボランティアとの繋がりだけでなく、ボランティアどうしの横の繋がりを意識することもポイントとして挙げられました。



(2) 事例報告「図書館を舞台に地域おこし」

● 「上士幌町内小・中学校 学校図書館での取組について」

上士幌町図書館 生涯学習推進員（司書） 橋本 香奈代 氏

かつて地域おこし協力隊として活動していた時の担当業務だった学校図書館の整備や活性化の取組について紹介いただきました。

予算がない中での図書管理の電算化や展示の充実、本を読むスペースの確保等のほか、学校における保護者・児童自身による読み聞かせの実施、公共図書館と連携した絵本作家の講演会実施の経緯等が紹介されました。公共図書館とのさらなる連携の強化や図書館を利用しない子どもへのアプローチ等、今後の課題についても触れられました。



● 「“繋がる”図書室を目指して」

豊浦町中央公民館図書室 地域おこし協力隊（図書室管理）木村 美朝 氏

小さい町、小さい図書室だからこそその良さを活かしてできることがある、と、書庫を無くして静かに勉強や作業ができる第二図書室としてリニューアルさせ、賑わいと静寂さを区分けするなど、図書館（室）の「当たり前」に捕らわれない図書室改善の実践を紹介していただきました。また、商工会とコラボした「ブックチャリティ」や町の人々と協働した企画展など、小さい町の状況を逆手に取った活動にたくさんの方のアイデアを提供いただきました。

(3) 「地域社会を持続させていくために、図書館ができること

～「我がまち」に無くてはならない「モノ」として～

講師 北海学園大学経済学部教授 内田 和浩 氏

人口減少等、縮小社会が進んでいる現状を指摘し、「縮充社会」へ転換するため、参加（参集・参与・参画）の質を高めた自治と創造の必要性についてお話しくださしました。



住みやすい地域社会を目指すために、まちに無くてはならない「モノ」（機能）として教育や医療、金融、商店を挙げ、それらを繋ぐ役割が必要であることを指摘し、人々の関係を紡ぐ居場所として「第三

の居場所」があること、さらに、若い人から高齢者にもすべての世代に「第三の居場所」があることについて解説していただきました。まちづくりの情報や地域の歴史を集積する図書館は無くてはならない存在であり、人々を繋ぐ役割を担えるよう活動していく必要があることを説かれました。

(4) 「協働で広げる学びの場」 北海道教育庁社会教育課主査 伊藤 嘉奈子

令和5年度からの5年間を対象期間とする「北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）」や「北海道子どもの読書活動推進計画〈第五次計画〉」、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文科科学省告示172号）といった図書館活動に関わる計画における基本目標や規程等に関する説明のあと、図書館が地域と連携できることとして、北海道ブックシェアリングや日本ハムファイターズの読書キャンペーン等、団体や民間企業との連携・協働の事例について紹介がありました。

(5) 情報交換「ウチの図書館パワーアップのヒント」

参加者の各図書館・図書室の活動状況や地域連携の実践事例について情報交換し、自館の運営を向上させるヒントを掴みながら、図書館職員どうしのネットワークを構築するグループワークを行いました。

参加申込時に活動状況や実践事例等の準備について呼びかけたところ、写真やちらし、タブレット端末を用いて自館のイベントや事業をPRする、熱気に溢れた情報交換となりました。



(6) 演習（グループワーク）「地域との協働で行う我がまちの図書館活動を考える」

グループ内からモデルとなる図書館（室）を設定し、地域と協働する事業を企画したあと、「館長に企画を説明する」想定で全体発表を行うグループワークを行いました。



【グループで検討した企画の例】 （注：演習の中でのアイデアです）

● 「日高でインドを推してみよう」

馬産地の働き手として町内に多く在住するインド人との交流やインド文化の理解を促進するため、日高町立門別図書館郷土資料館において資料展示やインド映画上映会等を実施する。町内のインド料理店や、牧場等競馬関連施設・企業等とも連携しながら、多文化共生を目指す取組。

● 「サンガーデン&図書館 お泊まり会24時」

隣接する2つの施設、サンガーデン（植物園）と苫小牧市立中央図書館とが協働して宿泊可能な長時間開館を行い、夜の館内ツアー等を実施する。一般利用者を対象として興味・関心を喚起するとともに、通常の開館時間中に利用できない層の来館を促し、相互の施設の利用者増の契機とする。

● 「昭和の津別と私」

津別町内に2紙ある地元新聞と協働して昭和の出来事を振り返り、高齢者を対象に昭和を懐かしむ企画。

「思い出BOX」で古い写真や資料を募集し、展示したりマッピングしたりするほか、集まった資料は地域資料として津別町図書館で保存する。



アドバイザーの内田教授から、実現できるのではないかと激励いただいた企画もあったほか、「イベントの対象は誰かを考え、図書館を身近に感じるような企画をして欲しい。一緒に考え学んでいく空間として図書館が機能すれば、地域から必要とされるだろう」との助言をいただきました。

○ 全道図書館専門研修 〈企画広報〉

10月19日（木）函館市中央図書館

全道図書館専門研修は、昨年度のアンケート結果を踏まえて、今年度からの3年間について開催方法等を見直し再編成しました。内容の構成は、「一般研修」と「実技研修」に分け、「一般研修」には、①利用者サービス、②レファレンスサービス、③地域資料を、「実技研修」には、④企画広報、⑤修理・製本、⑥子ども読書、の6つのカテゴリーを設定しました。開催数は年3回として、道立図書館での開催を基本としながら、うち1回を地方で、また1回をオンラインで開催します。アーカイブとして動画配信にも取り組む予定です。また講師には、特定分野の知識や技術向上のために、図書館関係者以外の専門家もお招きします。

今年度第1回となる当研修は、「実技研修」の④企画広報に位置づけて、講師に民間のデザイナーの方をお招きし、地方（函館市）で開催したものです。

■ 内容

(1) 「新たな利用者の獲得へ！視点を変えてひと工夫」

講師 北海道立図書館 主任 宮本 浩

図書館だよりや市町村広報、チラシ・ポスター、ホームページ、館内表示物などについて、図書館の未利用者を意識した視点で、道内図書館の事例を紹介しながら、利用者目線に立った分かりやすく、効果的な広報活動の姿勢について講義しました。会場後方には、道内図書館（室）作成の図書館だよりなど46種の広報紙も展示しました。



(2) 「魅力的なチラシ、ポスターの（なるべくラクする）作り方」

講師 株式会社佐藤デザイン室 取締役 佐藤 裕子 氏

札幌市内で道内の企業・店舗のロゴデザイン、道内農業法人の商品開発とデザインなどをされている佐藤様にチラシやポスターで伝えたいことをちゃんと伝えるためのデザイン、書体、配色について講義をしていただきました。また、「イメージ配色トレーニング」では、130色のカラーカードを使って、それぞれの言葉からイメージされる配色について演習を行いました。

① 料理がテーマのおいしい読書会



② 百人一首かるた大会



(3) 情報交換 「効果的な広報活動とは」

進行：宮本 浩 アドバイザー：佐藤 裕子 氏

参加者が持参した事業等のチラシ・ポスターを紹介しながら、レイアウトや配色について佐藤様からアドバイスをいただきました。

皆さんの制作スキルの高さに圧倒されました。



■ 事後アンケートから

研修に参加して、「チラシ・ポスター作りについて色やフォントなどを考え、伝えたいイメージを大切にしながら作成していきたい」、「普段図書室を利用しない人をどうやって呼び込むか、工夫が必要だということがよくわかった、今後に生かしていきたい」「配色トレーニング、大変でしたが他の方の配色も見られて、連想できる言葉や色の違いもあり、勉強になりました」などの好意的な感想が寄せられました。

■ 統計『北海道の図書館』を編集して

例年5月中旬頃、市町村の皆さんに前年度の利用実績や施設等の状況について数値等の提出をお願いしている調査をまとめたものが『北海道の図書館』という統計資料になります。

このうち、公共図書館については、本調査と付帯調査があり、本調査については、4月に（公社）日本図書館協会が実施する「公共図書館調査」の調査結果の一部を使用させていただいております。付帯調査は、道内の図書館の現状を把握するために必要とする調査項目を毎年検討し、独自に作成した調査票により、ご回答いただいております。

一方、公民館図書室等の図書館同種施設については、先述の「公共図書館調査」の対象とされないため、同調査から一部使用するものと同じ項目と、付帯調査の項目を合わせた「北海道の図書館」調査票を作成し、ご回答いただいております。

毎年基本となる調査（「公共図書館調査」から使用する）項目は、施設の状況（専有延床面積・図書館創設年・職員数ほか）と利用状況（資料費・蔵書関係・来館者数・貸出点数・予約件数・参考調査件数・相互貸借点数・移動図書館車ほか）があります。

付帯調査は、先述のとおり毎年調査項目を考え設定しますが、「地域資料」の点数については、欠くことができない項目として継続して報告いただいております。

編集にあたっては、提出いただいた調査票のデータを『北海道の図書館』のシートに一つひとつ落とし込んでいきます。

〔シートの内容〕

(1) 施設の概要

住所・休館日・開館時間・ホームページアドレス等について、管内別に「図書館」、「図書館同種施設」を続けてまとめています。

(2) 施設等の状況（公立図書館等） 施設形態・延床面積・図書収容能力・創設年・職員数ほかをまとめています。

(3) 施設等の状況（図書館同種施設） 施設形態・延床面積・図書収容能力・創設年・職員数ほかをまとめています。

(4) 利用状況

資料費・蔵書関係・利用状況 -登録者・貸出・予約・参考業務・相互貸借等- 移動図書館車について、管内別に「図書館」、「図書館同種施設」を続けてまとめています。

(5) 利用状況（付帯調査）

今年度の調査項目「図書館システム」、「学校図書館への支援サービス」、「返却スポットの設置」について、管内別に「図書館」、「図書館同種施設」を続けてまとめています。

(6)-1 利用状況（管内別集計・市立図書館）

(6)-2 利用状況（管内別集計・町村立図書館）

(6)-3 利用状況（管内別集計・市町村立図書館）

(6)-4 利用状況（管内別集計・図書館同種施設）

(6)-5 利用状況（管内別集計・全道）

(4)の項目について、各々管内別に集計しています。

「利用状況」の先頭には、住民一人当たりの数値を計上するため、住民基本台帳から当該年1月1日現在の自治体人口総数を記しています。

皆さんからいただいた数値を転記していく中で、単純な記載ミスに気付くことがあります。数値に単位があるもの（図書収容能力：〇〇千冊、資料費関係：〇〇千円、雑誌・新聞：〇〇種数）は要注意です。

また、図書館（自治体）によって、調査項目の数値を計上していない（できない）場合もあり、これらの確認連絡にも時間を要します。

例年、約半年をかけ編集している資料ですが、今年度もようやく公開に漕ぎ着けました。フォント等の見やすさも若干工夫しました。どうぞ御活用ください。

■ お知らせ

* 北海道図書館大会《基調講演・トピック》配信しています！

第63回（令和5年度）北海道図書館大会を、4年ぶりの集合形式で9月7日～8日の2日間開催しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

大会内容の一部について、期間限定で動画配信を行っています。大会ホームページから誰でも視聴することができますので、ぜひご覧ください。

■ 配信期間 令和5年12月28日(木)17:00まで

■ 配信URL <https://www.library.pref.hokkaido.jp/doc/taikai2023/>

※ 北海道図書館大会ホームページのトップページからリンクしています。

■ 配信内容

(1) 基調講演【本編 100分】

「北海道のアイデンティティを確認するための地域アーカイブという考え方」

講師：根本 彰 氏（東京大学名誉教授）

(2) トピック【本編 43分】

「動画時代の読書と、ローカルにおける書店の実情」

情報提供：武藤 あかり 氏（六畳書房3代目店主・動画配信者）

※ 分科会の配信はありませんので、ご了承ください。

※ アーカイブ配信にあたり、当日使用したスライド内容の一部を加工・修正しています。

※ 録画・録音しての視聴は固くお断りします。



トップページのボタンをクリック！

* 電子図書館オープン！（芽室町図書館、音更町図書館）

芽室町図書館は10月1日から、音更町図書館が11月1日から、電子図書館サービスを始めました。両館とも導入システムはOver Drive Japan で、道内では15番目、16番目の導入事例となります。

両館のスタート時点のタイトル数は、芽室町図書館 約17,700冊、音更町図書館 約12,500冊とのことです。当然ですが、同じシステムでもトップページのカテゴリなどが異なりますので、今後導入を検討している皆さん、一度アクセスしてみたいかが。

なお、両館とも利用対象は町内に在住、または通勤・通学の方に限り、十勝管内広域利用者や団体利用者は対象外としています。



* 国際子ども図書館・展示会「おいしい児童書」開催中



「食」にまつわる国内外の児童書を、「つくる」、「たべる」、「かんがえる」という3つの切り口から紹介する展示会が10月1日（日）～12月24日（日）の期間、国際子ども図書館（東京都台東区上野公園）で開催されています。

ホームページでは、カラフルな展示会小冊子のほか、展示資料253タイトルを収めたリスト等を公開しています。また、関連イベントとして、生駒幸子氏（龍谷大学短期大学部准教授）の講演会「絵本に描かれる食べもの―異文化理解、暮らし、ジェンダーの視点から―」が期間中YouTube 国立国会図書館公式チャンネルで公開しています。



※ 参照Webサイト：国際子ども図書館 TOP > 展示会・イベント > 展示会情報 > 開催中の展示会、これからの展示会 > おいしい児童書
<https://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2023-03.html>

* 「書店・図書館等関係者における対話の場」開催

文部科学省総合教育政策局と出版文化産業振興財団及び日本図書館協会が連携する「書店・図書館等関係者における対話の場」が、10月3日（火）と10月30日（月）、いずれもオンラインで開催されました。参加者は、書店・図書館・出版・著者・自治体の関係団体で構成され、書店と図書館等をめぐる現状と課題のほか、今後の連携のあり方について、意見交換がなされました。

この対話は、令和5年4月に示された「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」による第一次提言によるものです。提言では、全国的な書店の著しい減少傾向を指摘し、全ての国民があらゆる機会と場所において書籍に触れ読書を行うことができるよう文化拠点としての「書店」を振興するために、政府の関係各省庁に取組を求めました。

文部科学省に係る部分は「書店と図書館の連携促進」が掲げられ、公共図書館と書店と両者合意のもとで、共存できるルールづくりの検討が求められています。

なお、日本図書館協会のホームページに、次のとおり主な論点のほか、議事要旨、会議資料等が公開されています。

※ TOP > 書店・図書館等関係者における対話の場

<https://www.jla.or.jp/home//tabid/1051/Default.aspx>

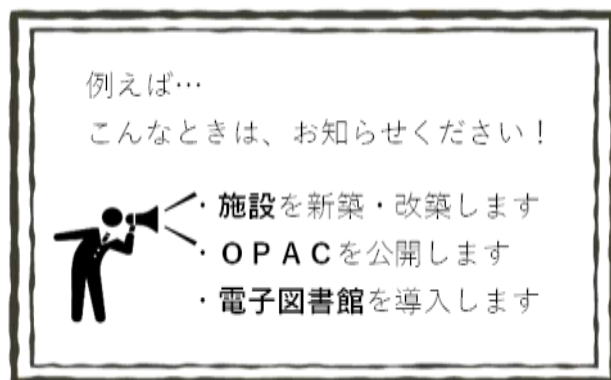


* 情報満載！「北海道の出版社」（『Do-Links 北海道立図書館情報検索リンク集』から）

開設から18年目を迎えた「Do-Links（どりんくす）」ですが、久々のコンテンツ紹介です。

「本・雑誌などの資料を探すサイト」の大きなカテゴリーの中に「北海道の出版社」があります。ここには、道内で出版事業をおこなっている企業・団体等がまとめられています。亜璃西社、かりん舎、共同文化社、寿郎社、中西出版、柏簾舎、北海道出版企画センター、北海道大学出版会、アイワード等の地元出版社や『財界さっぽろ』、『道民雑誌クオリティ』、『北海道じゃらん』、『農家の友』等の雑誌のサイト、コア・アソシエイツ（「北海道書店ナビ」）等もリンクしています。

いずれのサイトも情報満載で、出版情報に限らず、書店や図書館、道内各地の旬な情報も紹介されています。



編集後記



年賀状、書いていますか(まだ早いって?)。来年は辰年です。ウサギやヘビはそれなりに描けても、龍は正直言って難しい。想像上の生き物だから、適当でもいいじゃないか。龍(の絵)って、そもそも何図鑑に載ってるの?!ドラゴンが登場する作品は…。そんな言い訳をしている間に、お店にあったツリーが松飾りに変わり、結局フリー素材や市販のシール・スタンプを頼る気がします。毎年のことなのに。

5月に新型コロナウイルスへの対応が変わり、市町村支援事業等で直接図書館(室)や学校にお伺いする機会も増えました。季節の展示や装飾が出迎えてくれることも多くあり、職員の皆さんやボランティアの方のセンスと技術にはたびたび驚かされます。すてきな作品を他のマチに紹介するのも私たちの仕事、『あけぼのつうしん』の役割と思っています。クリスマス、お正月と1年の中でも最も華やかで、でも慌ただしい季節がやってきます。「これは!」と思う力作ができましたら、ぜひ片づける前に1枚!お写真をお送りいただければうれしいです。



企画支援課では、みなさんの図書館(室)の活動の情報を集めています。

好評だった事業、新しく始めた取組、ホームページのリニューアルなどなど、いつでも受け付けています。

『あけぼのつうしん』読後の感想も歓迎します。よろしくお願いします。

shienka@library.pref.hokkaido.jp

あけぼのつうしん No. 85

発行日 令和5年(2023年)11月30日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <https://www.library.pref.hokkaido.jp/>